垣見　空中写真の結果や、日本の活断層を示した図にないことも。

佐田岬半島には地殻変動のあとが

原告　佐田岬半島に海岸段丘はあるか？

垣見　大規模なものはない。

原告　文献では、三崎町などにあるし、また、愛媛県の西海岸では、海岸段丘も発達していて最近の海退または地盤の上昇を示しているらしい、などと書いてあるが？

垣見　書いてあることは認める。

原告　海岸段丘ができた原因は？

垣見　氷河期に海面が下がり、その後の海面の上昇、下降に伴ってできたと一般に解釈されている。

原告　ほかの原因は？

垣見　地震による隆起も太平洋岸には見られるが一般的でなく、長期にわたって徐々に隆起する可能性はある。

原告　さっき、三崎半島には陥没地形などない、と判断したということだったが？

垣見　原発の重大な事故につながるような急激な地殻変動はない、ということで、１年間に１ミリ程度の隆起などは、立地の適否に関係ない、ということだ。

原告　１年で１ミリの隆起で海岸段丘ができるのか？

垣見　もっと速度の早い海面の上昇や下降との複合作用と推定できる。

原告　証拠に出した文献では、佐田岬半島に多い２メートル内外の平坦な海食台地も、新しい時代の局地的地盤運動を示唆している、とあるが？

垣見　日本全国にある海食台と同様に、海面の上昇で説明でき、局地的な変動で解釈する必要はないと思う。

原告　それでは、胴切断層による隆起との関係は？

垣見　胴切断層の作用も三崎半島の生成のすぐあとで、それから海岸段丘ができていった、と考えればいい。

原告　しかし文献には、中央構造線を境にして、海岸段丘形成後に間欠的な隆起によって、大きな垂直的変異が生じていることは驚くべきこと、と書いてあるではないか？

垣見　この著者の見解はそうだが。

原告　さきほどから確認しているように、佐田岬全体を見ると、海岸段丘が形成されているし、胴切断層も多数走っているし、南海大地震の際には八幡浜付近でも地盤沈下が起っている、など、地盤はけっして安定していないではないか？

垣見　古い時代に地殻変動が何回も起っていることは認めるが、原発の大きな事故につながるような地殻変動ではない、と証言してきた。

（以下次号に続く）

会計報告（'93.11/1～11/30）

収入	
ニュース講読料	２８、０００
コピー代	５、６００
計	３３、６００
支出	
ニュース印刷代	１７、５００
郵送料	１０、９３２
振替手数料	１１０
計	２８、５４２
差引	５、０５８
積立金合計	２、０６９、６２６

伊方訴訟ニュース

第 244 号
1993年12月15日

伊方原発訴訟を支援する会　連絡先 〒530 大阪市北区西天満４－９－15 第一神明ビル
藤田法律事務所 電話 06－363－2112 口座 大阪３－48780

愛媛労連などが県に申し入れ

伊方原発でのプルトニウム利用を止めよ

１１月１７日、愛媛労連など県内の１１団体で構成する伊方原発対策会議は、愛媛県の伊賀知事あての申し入れ書を県庁に提出しました。その内容は、伊方原発でプルトニウム燃料を使わないことを四国電力に求めることや、住民参加の原発防災訓練を実施するよう求めたものです。

この申し入れに先立って、さる９月議会では、共産党の県会議員が「伊方原発でプルトニウム燃料を利用する計画はあるのか」という趣旨の質問を行いました。それに対して知事は「四国電力に問い合せたが、いまのところプルトニウム燃料を使う予定はない」と答弁したとのことです。しかし、四国電力の宣伝資料などでは、ウランとプルトニウムの酸化物を混合した、いわゆる、プルサーマル燃料の利用を、伊方原発でも考えていると書かれているので、今回の申し入れが行われたとのことです。

今年正月に「あかつき丸」に積まれたプルトニウム約１トンがフランスから日本に送られてきました。世界の多くの国々や住民が、あの輸送に反対しましたが、それは、もちろん、猛毒のプルトニウムの海上輸送に対する反対が中心でしたが、同時に、こんごもプルトニウムの搬入が続けば、日本国内で必然的にプルトニウムの余剰が生じ、日本の核武装を促進するのでは、という危惧からの反対も強かったことは、よく知られています。

「プルトニウム余剰」に対する国内外の反対を静めようとして原子力委員会や科学技術庁は、「プルトニウムの利用計画によると、プルトニウムが予定どおり搬入されてもプルトニウムの余剰は生じない」と懸命に宣伝しました。その「利用計画」の中では「もんじゅ」の運転を皮切りに、高速増殖炉を本格的に開発する予定が組み込まれています。同時に、高速増殖炉の本格利用までのつなぎとして、現在の軽水炉でプルトニウムを燃やす「プルサーマル利用」が予定されています。

しかし、「プルサーマル利用」には各電力会社も及び腰になっています。その前途には、プルトニウム燃料の使用が原子炉の運転に不安定さをもたらすこと、日本国内にプルトニウム燃料を製造する会社がないこと、輸入するとしてもコストはこれまでのウラン燃料よりずっと高くつくし、海上輸送に対する国際的な反対は減りそうにもない、などなどの難問題が立ちはだかっているからです。

四国電力はじめ各電力会社の及び腰を砕いてプルトニウムの利用をあきらめさせることは大きな意味を持っています。

垣見証人反対尋問の内容

－２号炉第５０回公判（1993年8月27日）－

（その３）

「南海大地震」の影響は？

（続き）

原告　これまでの証言をまとめると、三崎半島は岩盤で地殻変動は少なく、地震で数１０センチ沈降しても、地盤変動を除いた地殻変動は数センチ程度である、ということか？

垣見　そのとおり。

原告　長浜町の町誌では、南海大地震の際に、長浜港湾および西海岸一帯は３０センチメートル沈下した、とあるがこれも地殻変動と地盤変動を一緒にしているというのか？

垣見　たぶんそうだと思う。

原告　ここには西海岸とあるが、伊方原子炉は西約２０Ｋｍにあるので、当然含まれているのでないか？

垣見　西海岸といっても限定しておらず、１～２Ｋｍの範囲ということも考えられる。

原告　西海岸は堆積物がなく地盤沈下を起こしにくい断層海岸地形なのだが。

垣見　そうだ。

原告　そこが３０センチも沈下したのだから地殻変動ではないのか？

垣見　水準点がないから、目視だけで３０センチという値が出たのかも知れない。

原告　証人では判断できないということ？

垣見　そうだ。

原告　八幡浜の場合、７センチから２３センチの沈下が報告されているが。

垣見　２３センチという値は、周りの数値と離れているので、地盤沈下の影響が出ているのではないか。

原告　マイナス７センチだけが地殻変動？

垣見　そうだと思う。

原告　そのような地殻変動をもたらした地震を、安全審査ではどう審査したのか？

垣見　南海地震の震源は伊方の敷地から遠いので、震度は４程度であっても、卓越周期は非常に長いものとなって原発への影響は少ないので、もっと厳しい影響を与える地震を設計用地震に選定したように覚えている。

原告　地震動の想定対象にはしなかった？

垣見　そうだ。

原告　ほかの自然現象は起らないと考えたのか？

垣見　地殻変動について検討したが、広範囲に一帯が数センチ隆起、沈降する現象で、原発の設置に差し支えはない、と判断した。

原告　そうすると、１０センチか５センチ程度沈下しても原発は大丈夫ということか？

垣見　広い地表面が一斉に沈下しても原発の立地になんら影響ないと判断した。

原告　原子炉の付近全体が５センチ程度沈下しても大丈夫というのか？

垣見　５センチの沈下といっても、沈下の等高線で２０～３０Ｋｍの範囲は一定なので、原発のように基盤の広い建築物に対しては、なんら影響無いというふうに考えている。

原告　地震動の影響が小さくても小さくなくても、この南海大地震タイプのものは、伊方の地盤を現に傾かすほどの大きな地震であるのに、安全審査では、タイプＡ，タイプＢのどちらの地震にも入れず審査の対象にしなかったというのは、納得できない。

伊方周辺の地質は安定と言えるのか？

原告　主尋問で証人は、伊方原発周辺の地質について、地形図や空中写真の判読から、敷地が属している佐田岬半島では、火山活動や大規模な地盤変動のない安定したところと証言しているが。

垣見　火山地形や陥没地形はないことを確認している。

原告　火山はないだろうが、陥没地形というのは？

垣見　陥没運動ということ。

原告　地形図や空中写真の判読の結果、火山活動や陥没地形以外の特徴ある地形はなかったか？

垣見　短いリニアメント（編集注：小さな断層のこと）と、余り大規模でない地滑り地形などが半島一帯にあったと記憶している。

原告　半島の災害記録は古文書でも調査したというが、どんな文書か？

垣見　四電の申請書に参考文献としてあがっていた、伊方町誌、愛媛県誌、それに土木十年誌など。

原告　伊方以外の三崎半島の現地調査は？

垣見　やっていない。

原告　半島全体ではどれぐらいの断層があるのか？

垣見　落差が１ｃｍぐらいのものまでいれると無数ある。

原告　胴切断層というのを知っているか？

垣見　長く続いている地質的な構造を横に切っている断層のこと。

原告　大根とか、かまぼこを包丁で切ったようなもので、切ったやつが胴切断層か？

垣見　そうだ。

原告　１０万分の１の地形図を見ると、三崎半島に２０から３０の胴切断層があり、それらは、三波川帯特有の結晶片岩、つまり、緑色片岩や黒色片岩を南北に切っている。

垣見　そのとおり。

原告　それらは中央構造線にまで続いていると、考えられないか？

垣見　それは分からない。

原告　半島だけにしかない、ということは考えられないだろう？

垣見　続いている可能性はある。

原告　ところで、日本一長い三崎半島が、どうして、雨風や波の浸食に長年耐えてきたと思うか？

垣見　緑色片岩よりも軟らかい黒色片岩などが先に浸食され、緑色片岩が残ったのではと推定している。

原告　ここに示した証拠文献には、西に向って沈もうとする半島西側を、何本もある胴切断層が持ち上げている、と書いてあるが？

垣見　今初めて知った。

原告　あなたは、どう思うか？

垣見　断層によって切られた地塊の持ち上げられ方についてはよく分からないが、この地質図を見ると、断層によって三崎半島が持ち堪えられている、という解釈は確かにあり得ると思う。

原告　安全審査では、どうだったのか？

垣見　そういう解釈はしていなかったと思う。ただ、断層らしいものはあるが、活断層ではないと解釈していた。

原告　活断層でなかったら、そのうちに三崎半島はなくなってしまうということか？

垣見　非常に長い目で見れば浸食によってなくなるかもしれない。

原告　活断層でないという証拠は電力中央研究所の文献だけか？